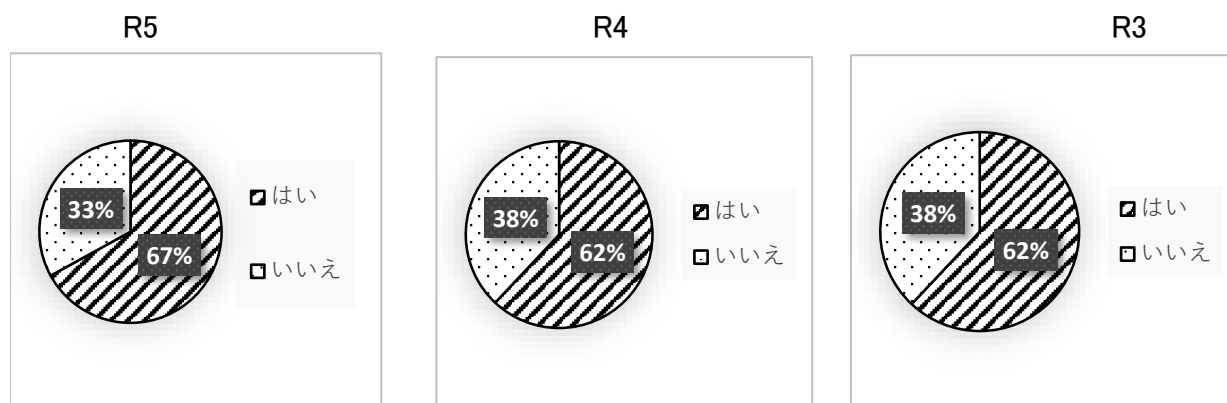


令和5年度「情報端末及びインターネットによるトラブル調査結果」の結果報告

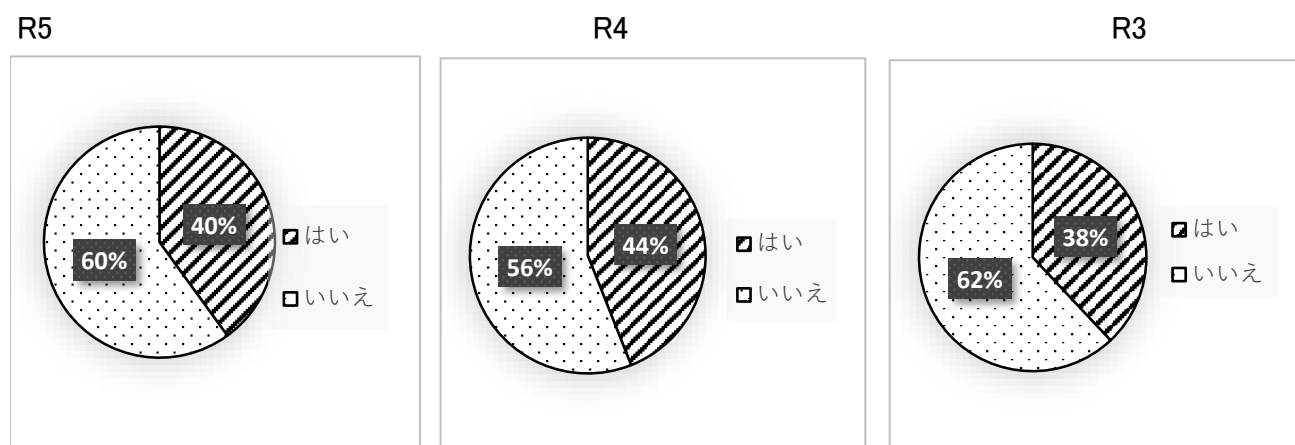
設問1「自分の携帯電話かスマートフォンを持っていますか」



【考察】

市内児童生徒の7割近くが携帯電話か、スマホを所持している、と回答している。経年でも増加傾向である。持つ前、持つタイミングでのルールづくりや適正な使用について指導していく必要があることがわかる。持っていることは前提として、「どのように使うか」ということを、適切に指導していくことが肝要である。そのために、私たち「指導する側」が研修を受けたり、勉強をし、何ができるのか、どのような点が危険なのか、を具体的に指導する必要がある。そのためには、各校で外部講師(県、市、警察など)を招いて、各教師のスキルアップをしていく。

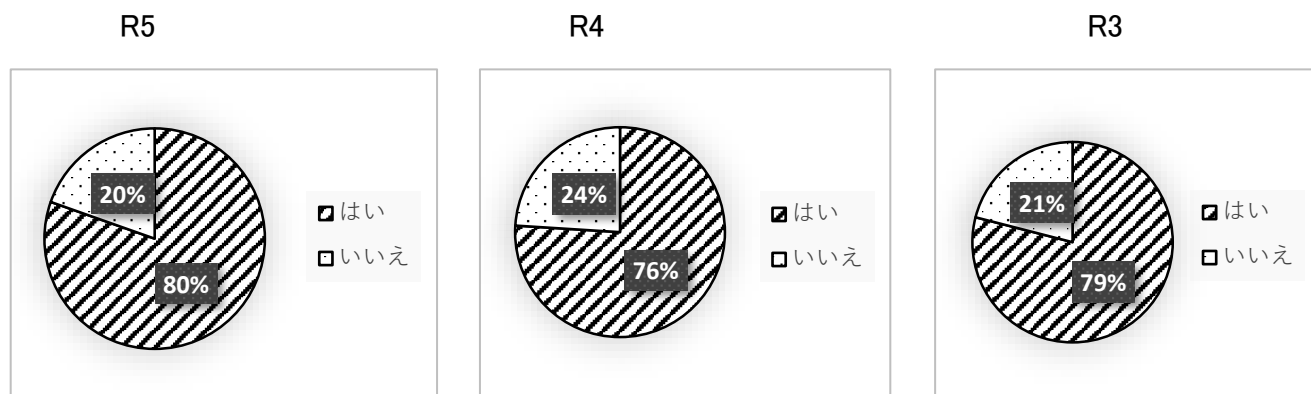
設問2「フィルタリングがかかっていますか」



【考察】

フィルタリングに関しては、4割の児童生徒がかけていることがわかった。危険性の周知が進み、所持の低年齢化に従って意識の高まりが背景にあると考えられる。さらに、この傾向を適正利用啓発学習会などで推し進めていきたいと考える。また、わからないの回答も45パーセントあることから、自分自身の携帯がどのような状況にあるのか、を把握していない児童生徒も多数いることがうかがい知れる。携帯の設定状況などを確認することも有効と思われる。例えば、学校全体での集会、あるいは授業などの場面で設定のチェックリストなどを実施してもらい、自分がどのような状況にいるのか、を知ることがまずトラブルを減らしていくことに関して必要なことであろう。

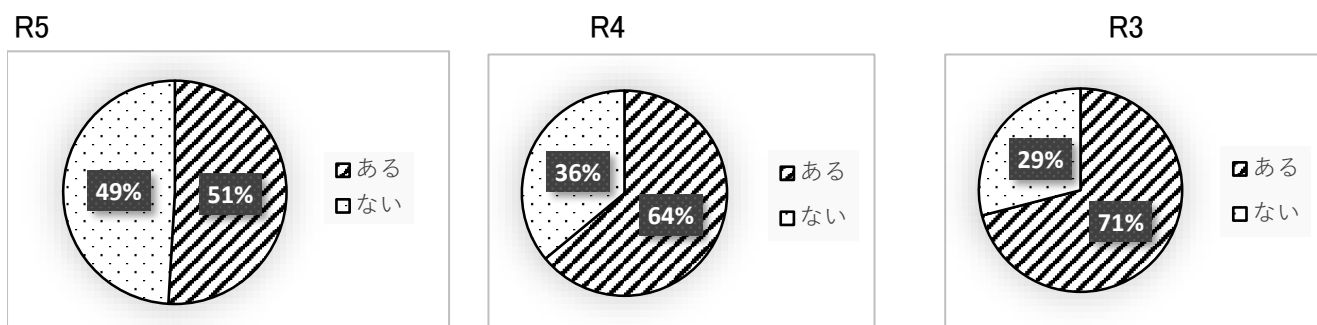
設問3「学校外で情報端末からインターネットを利用していますか」



【考察】

予想されたことだが、インターネットの利用が、7割を越えていることがわかった。とても多くの児童生徒が使用していることを前提として学習会や講習会を行っていくことが大事である。学校外でも、インターネットはもはや特別なものではなく、日常のツールである。一度伝えて終わり、ではなく大切なことは何度も何度も繰り返し伝えていくことである。

設問4「メールの利用について家の人と約束事がありますか」



【考察】

ある、ないが拮抗している調査結果となった。やや意外な結果と言えそうだが、やはり紙などにしっかり残すことで「ある」の意識が高まるのではないか。購入当初は何等かの約束をしているであろうことは、予想されるが、使用していく中でそのルールの意識が薄れるのかもしれない。ルールを確認し、それを明文化するなど、「目に見える」ものにしていくことは極めて重要である。さらに、適正利用啓発学習会では特に力を入れていることだが、保護者との約束を再度確認することは、もっとも有効であると考えられる。

設問5「平日のメールやネットの平均利用時間について」

項目	R5	R4
平日は使わない	15%	17%
30分未満	21%	21%
30分～1時間未満	17%	16%
1時間～2時間未満	18%	18%
2時間～3時間未満	12%	11%
3時間～4時間未満	7%	6%
4時間～5時間未満	4%	3%
5時間以上	6%	7%

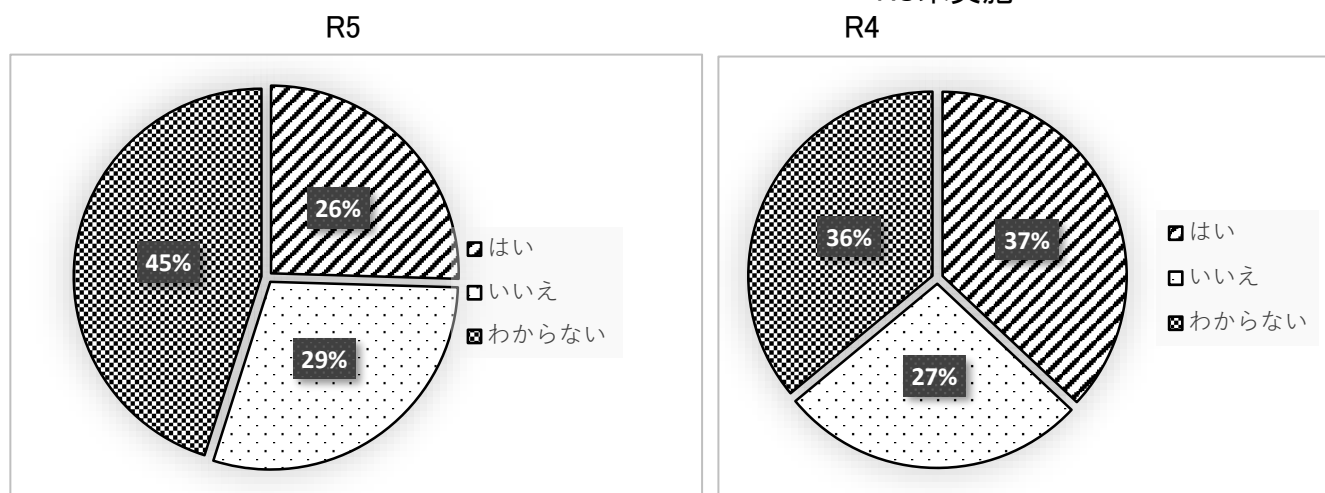
端数 四捨五入
R3は別形式

【考察】

この結果から、ネット平均利用時間は半数が1時間以上となっていることがわかる。当然使用時間が長ければ、他の時間が圧迫されるので、ここに通塾などが加われば、寝不足や運動不足等、生活習慣の乱れによる不登校、さらにネット依存やゲーム障害等が生じてしまう恐れもある。また、長時間利用の児童生徒もいることから、今後もネット利用時のルールや約束事について、学校や家庭、地域等と連携し、ネットの適正利用について深く考えていく必要がある。依存と呼ばれる状況は、脳にも影響を与えていると言われている。文部科学省もYouTubeなどでもその危険性を、訴えている。ギャンブルなどと同様に、本人が「どうにもならない状況」に陥らないように導いていくのが、大人の責務であると考ええる。

設問6「保護者の方がコンテンツや利用時間を管理する機能を利用していますか」

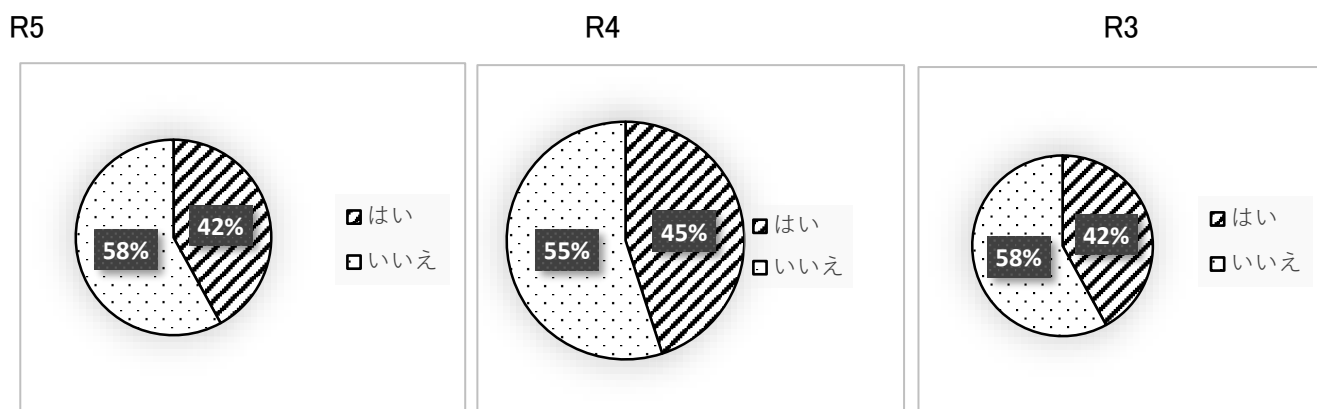
* R3未実施



【考察】

保護者による管理機能の利用率は、それほど高くない。契約の時などに一括して行うことが多く、時間を短くして後でやれば良い、などと思うことが多々あるからと考えられる。これは、フィルタリングについての意識が低いことと関連している。契約などの常として、その時には話題にできるが、保険などと同様に「何がどうなっているのか」は一度契約してしまうとわからない状況になってしまうことがある。講習や、授業を通して、あるいは保護者向けの学習会などでこのことに触れることも大切であろう。

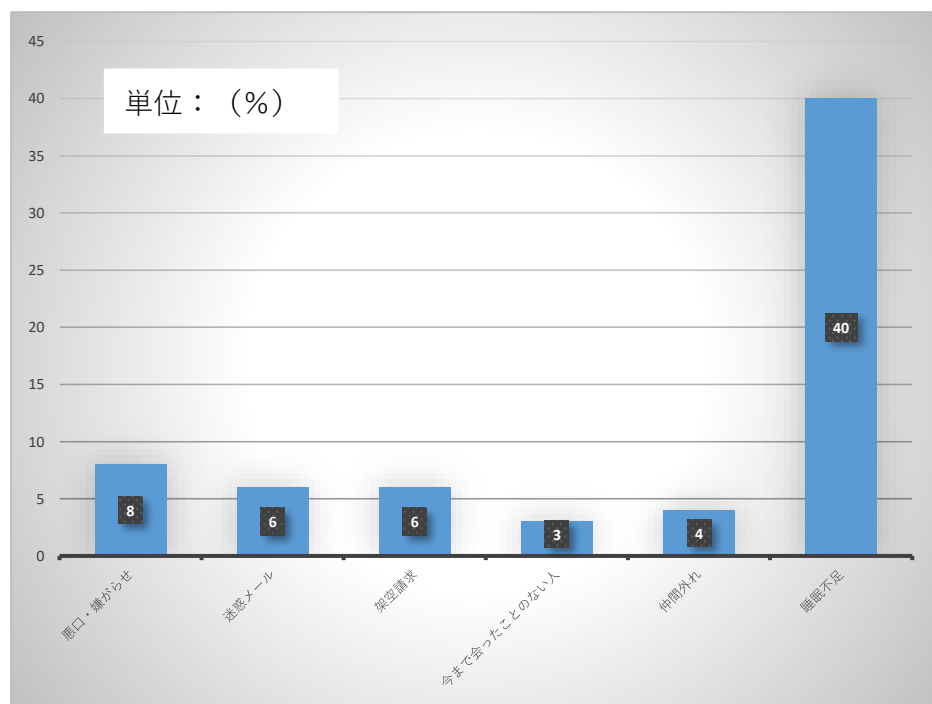
設問7「SNSを利用していますか」



【考察】

市内全体で4割の児童生徒がSNSを使用しているというのはやはり私たちが頭に留めておかねばならないことである。翻って、私たち大人の側のSNSに関する経験値や知識はどうだろうか。教育関係者ということ言えば、こういったツールの使用率は高くないと考えられる。児童生徒の方が先行している状況も予測できるため、大人の側の使用状況や、知識を調査し、今後これらについて講習などを実施する必要性が高まることが考えられる。一度書いたら消えない「デジタルタトゥー」の話や、匿名でも追えば発信者はわかってしまう話など、「知っていれば良かった」後悔を児童生徒にさせないようにしていくことが大切である。日進月歩のSNSについて、私たちも勉強をする必要がある。

設問8「今まで経験したことについて」



- ・メールやSNSへの書き込みに悪口や嫌がらせを書かれたことがある。
- ・迷惑メール（出会い系、いやらしい内容、チェーンメール等）がきた。
- ・架空請求（利用した覚えのないサービスへの請求）をされたことがある。
- ・今まで会ったことのない人とメールやSNSをしたり、実際に会ったりしたことがある。
- ・SNSで仲間はずれにされたことがある。
- ・メールやネット、ネットゲーム、SNSに熱中しすぎて寝不足になることがある。

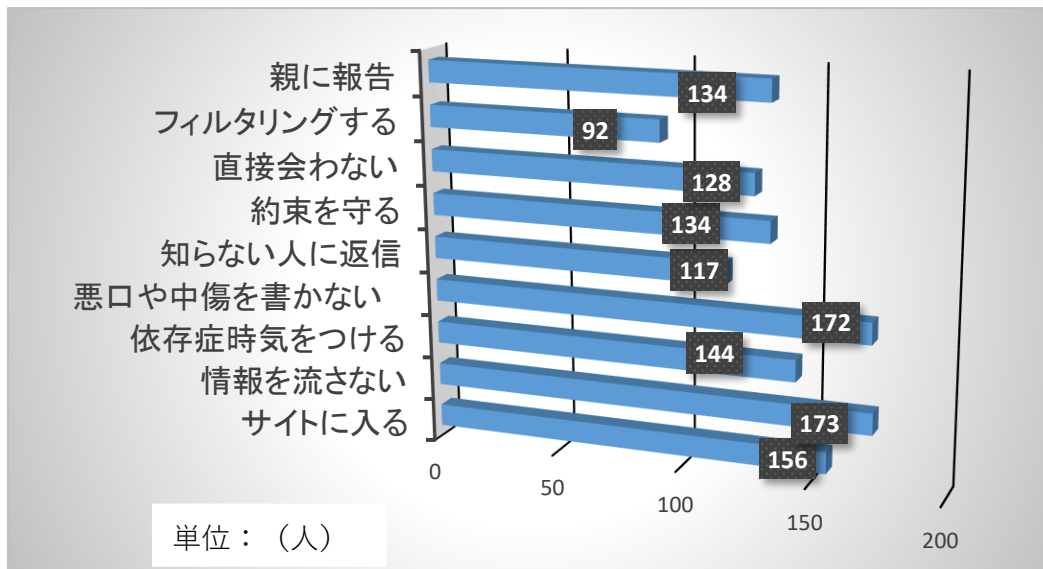
「その他」の回答

- ・ゲームをしていて、返信しなかったら責められた。
- ・宝くじがあたったと言われたが無視した。
- ・DMで連絡を取ったことはある。
- ・スクラッチを利用したことがある。
- ・よくわからない所からメールが届く。
- ・詐欺メールが来た。
- ・インターネットに集中していたら、寝るのが遅くなった。
- ・商品が届きます、とメールが来たが届かなかった。
- ・知らない人からメールが来た。
- ・SNSで人とDMはしたことがある。
- ・ウィルスに感染した。
- ・中国から電話がかかってきた。
- ・ゲームで知らない人とボイスチャットをした。
- ・スマートフォンに夢中になりすぎて、何時間も触っていた。
- ・メッセージ送信アプリでスタンプ連打などの迷惑行為があった。
- ・ずっとメッセージ送ってくる。
- ・Youtubeを見ていたらあと3分でウィルスが入りますと出てきた。
- ・ゲームのことを考えて眠れない。
- ・インターネットをしているときにウィルス警告が出てくる。
- ・ゲームのしすぎと自覚している。

【考察】

メディアリテラシーには個人差があることがうかがわれ、ひどいことを言われたり経験したりしている児童生徒もいる様子がわかる。実際、大人の世界でも昨今、見知らぬ人の誹謗中傷をきっかけに、あるいは知ってはいても「実際には会わない」関係性の中で悲しい結末を迎える事象がニュースにもなっている。不易流行の不易に部分は、実際に会って、生身の人間の空気感や表情に触れることだが、残念ながら流行の部分で最新の技術の中で悲しい思いをしている実態がわかった。実際にこのようなことを経験した場合の対処の方法などは引き続き教えていく必要を感じる。

設問9「メールやネット、SNSを使う時に、特に気を付けなければならないこと」



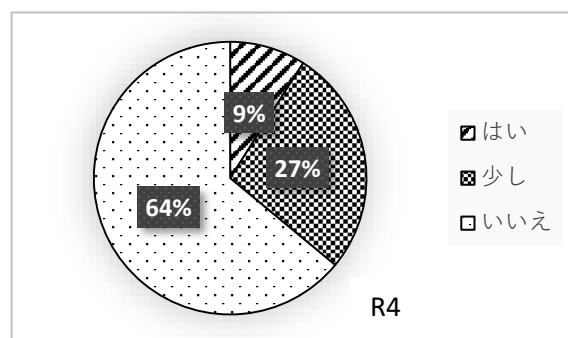
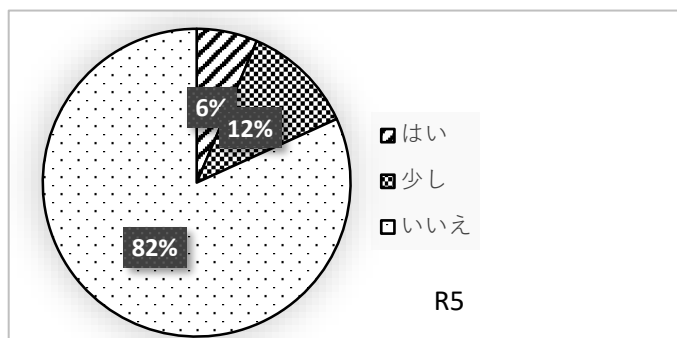
「その他」の回答

- ・SNSで書き込まない。
- ・ゲームで煽ってきたら、ブロックする。
- ・色々勝手に触らない。
- ・課金しない。(親の許可を受けた場合はいいと思う)
- ・親に借りたスマホで隠れてサイトを開かない。
- ・長時間使わない。
- ・知らない人から送信されてきたのメールは見ない。
- ・人の写真はSNSで発信しない。
- ・ゲームなどでなるべくお金を使わない。
- ・誰でも簡単に見れる所に顔が写っている写真を載せない。
- ・個人情報教えない。
- ・インターネットの利用は9時までにはしている。
- ・SNSをしない。
- ・たくさんゲームをしない。
- ・チェーンメールには従わない。

【考察】

デジタルネイティブと呼ばれる世代に入って久しい児童生徒になり、ある種のネットとの付き合い方は構築されてきている印象である。気をつけることは、児童生徒も知ってはいる。しかし、それらを意見として出させた上で、「ルールとしてまとめ上げていく」ことも重要である。端的にでもいけないことはいけない、と年代に応じて学習していくことが重要である。そのような中で、「なぜいけないのか」を考えるような場面があれば、理解が深まり、規範意識が浸透していくのではあるまいか。機会を捉えて何度でも指導したい事柄である。

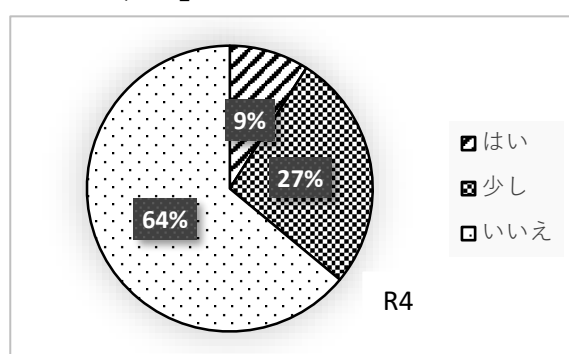
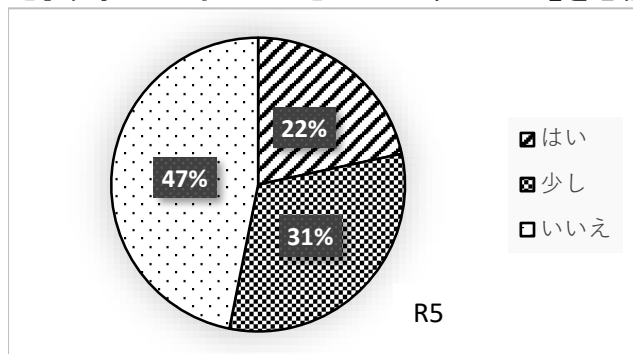
設問12「『中学生が守っていききたい基本ルール』(習志野市)について知っていますか」



【考察】

「いいえ」の割合が80%以上という結果から、『中学生が守っていききたい基本ルール』(習志野市)を認識している生徒が少ない。「中学生が守っていききたい基本ルール」で周知するのであれば、再度広めていくのが良いであろうし、これに代わるもので対応していくのも一案であろう。

設問13「設問12で「知っている」「少し知っている」を選んだ人は情報端末やインターネットを使うとき『中学生が守っていききたい基本ルール』を意識していますか」



【考察】

設問12で知っている生徒の中で(中学生)の回答となる。こちらについても、高い割合ではないので、新たに周知を行うか、異なった方法で使い方を周知していくなどの方法を考えていくも検討したい。